

第3回 福知山市企業交流プラザあり方検討会議事録

【日 時】 令和6年5月30日(木)10:00～11:50

【場 所】 福知山市役所ハピネス会議室2

【出席者】 委員7名（うち1名オンラインによる参加）、アドバイザー1名、事務局8名

【配布資料】 レジューメ、委員名簿（資料-1）、福知山市企業交流プラザに係るアンケート結果（資料-2）、アンケート調査票（資料-3）

- 1 開 会
- 2 報 告
- 3 議 題
- 4 閉 会

1 開 会

2 報 告

（1）委員の紹介

▶事務局

- ・これまでの検討会において、市民の方からのご意見をいただくこともよいのではという意見があった。
- ・第1回第2回検討会で検討すべき事項を洗い出し、議論を進める材料が一定整ったところで、令和6年度の検討会においては、市民委員を地域住民の方及び市民一般公募より選出し、検討会に参加いただくこととした。
- ・地域住民の方の選出については、企業交流プラザに近接の下六人部自治会長会より選出いただき、大野自治会長の大林泰山委員にご参加いただく。
- ・一般公募については4月8日から4月30日まで実施したが、応募がなく、市民委員としては、地域住民からの選出の1名とする。

【各委員の紹介】

（2）これまでの検討会まとめ

▶事務局

○第1回あり方検討会まとめ

- ・施設の経緯と現状の確認、検討すべき事項の洗い出し、物件の見学。

- ・本検討会の位置付けは長田野工業団地利活用増進計画において、施設の更新を前提としたあり方の検討を行うとしており、当計画を進める中で設置した旨を説明した。
- ・市のエネルギー環境基本計画においては、本市産業の集積地である長田野工業団地へのアプローチも検討していることを説明した。
- ・意見交換の前段として、工業センターより物件の深刻な老朽化、利用状況、立地の特性から、企業間の交流や連携に特に有効であること、また災害対策の拠点機能としても検討できるのではないかといったご意見をいただいた。
- ・検討にあたっては、佐藤委員長から、どのような役割を誰のために果たすのか、どこにどの程度の規模の、どのような設備とするのか、運用期間はどうかについて議論を深めるべきことなど方向性を示していただいた。
- ・これを踏まえ意見交換では、委員の皆様から企業間の相互連携に目的を絞って、オーバースペックとならないよう注意すること、また長田野工業団地の地域経済効果は絶大であり、工業団地を中心にした施設で問題ないといったご意見や、反対に地域住民の方にもしっかりと使っていただけるよう、住民の方の思いやニーズも拾い上げるとよい、といった市民意見の重要性についてもご意見をいただいた。
- ・また長期的な運用を見据えた機能、設備の検討が必要であること、ゼロエネルギーに近いシンボリックな視察されるような施設、防災拠点として潜在的な可能性など多様なご意見をいただいた。
- ・アドバイザーからは、府は子育て環境日本一を掲げているので、子育てに資する機能を付加できるとよいといったご助言をいただき、第1回が終了したところである。

○第2回あり方検討会まとめ

- ・第1回の検討を受けて、基本機能付加機能を検討すること、また工業センターとして、施設にどのような機能や設備が必要かなどの意見をいただいた上での意見交換とアンケート調査、調査範囲についての検討を中心に行った。
- ・まず前段で工業センターより、大ホールは有効に利用されており、現行同様に、従業員の合同研修や工場長会、就職面接会等に対応できる大ホール、また中小会議室は最低限必要とのご意見をいただいたところである。
- ・その他は、近年の工業団地全体の駐車場不足を背景に、貸出用駐車場50台程度用意できればとの意見があった。なおこの駐車場については、検討会での意見交換において、あり方検討会のみで議論するには限界があるため、工業団地全体の問題として議論されるべきこととして課題を共通認識とした。
- ・機能面については、展示ホール、交流ホールとして、大学等の研究機関との交流や研究ができるような1歩踏み込んだ機能を持たせてはどうかということ、また防災機能についても持たせ

るべきではないかということ、その他雨天時においても子どもたちが学び、遊びができるような施設を検討できないかといったご意見をいただいた。

- ・これらを踏まえ、長期運用を前提とした省エネ、省資源、かつ流動的な運用が可能なフレキシブルな計画が必要であろうとの意見や、将来世代へのアプローチについて、労働生産人口が減少する中で、市内企業への就職を促すことも重要であり、またこうした中高生へのアプローチということで、ものづくりに触れられる空間、企業の技術者や経営者と交流できる機会を設けることも大切だとの意見があった。
- ・大学関連では、研究・交流的な拠点となることなど、学会を呼ぶことができる施設の検討、また雇用面につきましては、雇用連絡会議の取り組み、工業センターを中心とした雇用イベントなどが特に重要で、今後も継続が必要であろうとのご意見をいただいた。
- ・アドバイザーからは、ソフトの議論をしっかり行った後に、ハードを具現化すべきこと、現在の利用者は立地企業と従業員がメインであることから、ここへのアンケート調査を実施し、結果をもとに検討を求めるべきとのご助言をいただいた。

○アンケート調査について

▶事務局

- ・利用頻度が高いと考えられる長田野工業団地立地企業とその従業員、企業間の交流を念頭に市内企業へのアンケート調査を実施することとした。
- ・立地企業については全数調査、立地企業従業員についてはサンプル調査で確からしい結果が得られる数を設定して実施。
- ・立地企業以外の市内企業へは、商工会会員企業、商工会議所会員企業に調査することとして、調査件数は、商工会、商工会議所において適切な企業を抽出いただくこととした。
- ・今回はその調査結果を中心に議論を深めていただきたい。

3 議 題

(1) 調査結果報告と意見交換

▶委員長

- ・まずは事務局より調査結果の報告をお願いしたい。この報告は、立地企業、立地企業に関する従業員、商工会・商工会議所の会員企業の順で説明いただきたい。
- ・調査結果に関する質問がある場合には、その区切りのタイミングで質疑応答の時間をとるので、その際にご発言いただきたい。
- ・事務局からの調査の結果及び質疑を終えた後に、調査結果に基づく検討の方に進んでいきたい。

【調査結果報告】

○企業向けアンケート結果

▶事務局

- ・まず概要の回答者数につきましては長田野工業団地立地企業33社、アネックス京都三和立地企業12社の計45社から回答をいただいた。
- ・回答企業の従業員数の内訳は、10人未満の企業から400人以上の企業まである。
- ・利用実績と利用頻度は、1番の長田野工業センターが実施する研修や会議への出席、イベント等への参加については、0回～20回以上の利用実績があった。多くの企業で年1回以上利用されている結果となった。2番の自社が実施する研修や会議への出席、イベント等への参加は、0回と回答された企業が39社あった。3番の1、2以外の研修・会議についても、0回と回答された企業が約半数の21社あった。
- ・アンケート調査票問2の結果について、特に特徴的だったものをいくつかピックアップして報告する。
- ・まずはスライド8ページの（2）団体等が実施する会議等での利用について、こちらは長田野工業センター主催でこれまでから実施している工場長会などを想定した設問ですが、全体では「少し望む」「望む」をあわせた回答率が60%以上という結果になった。また、内訳としては長田野工業団地立地企業は「少し望む」「望む」の回答率が70%以上だったのに対し、アネックス京都三和立地企業は33%となった。
- ・スライド14ページの（8）団体等が実施する雇用・就職イベントでの利用ですが、こちらも全体では「少し望む」「望む」をあわせた回答率が60%を超える結果となった。また、長田野工業団地立地企業については、「望む」のみの回答率をみると64%あり、これまでから実施されている雇用に関するイベントでの活用が更新後においても望まれている結果となった。
- ・スライド17ページの（11）団体等が実施する各種研修について、こちらはこれまでから長田野工業センターなどで実施されている各種研修等が当てはまるが、全体の「少し望む」「望む」をあわせた回答率が77%という結果となった。工業団地別でも、「少し望む」「望む」をあわせた回答率がどちらも50%以上あり、この機能についても更新後において多く求められている結果となった。
- ・スライド19ページの（13）大学・高専等の学生向け合同企業説明会など、学生と企業の交流会に係る設問ですが、こちらも「少し望む」「望む」をあわせた全体の回答率は64%となった。また、長田野工業団地立地企業においては、「望む」のみの回答で50%を超えており、学生と企業の交流を多くの企業が望んでいるという結果となった。
- ・スライド27ページ及び28ページの防災に関する設問を見ていきたい。（21）及び（22）の設問はどちらも「望む」の回答率が非常に高く、工業団地別にみても多くの企業が防災の機能を望んでいるという結果となった。
- ・スライドの30ページ、31ページの企業交流プラザの設置場所及び規模についてですが、設置

場所については、現在の場所と回答された企業が一番多く、次いで場所は問わない、その他と回答された企業も意見としては長田野工業団地内といった声が複数あった。企業交流プラザの規模については、「機能が充実すれば規模は問わない」と回答された企業が6割強という結果となった。

▶委員長

- ・そうしましたら、まず1つ目の立地企業の調査結果のまとめのところについて、何かご質問ありますでしょうか。
- ・私から1点、4ページのところに書かれている利用実績と利用頻度の回数は、年間で何回という理解でよろしいですね。

▶事務局

- ・はい、直近1年間の利用回数となっている。

▶委員

- ・利用の予約の仕方とかそういうシステムはどんなふうになっていますか。要するにその会議室を利用するときに、例えばプラザに行って何かノートに書きこむとかあるいはネットで申し込むとか、そのあたりの方式をお聞きしたい。

▶委員

- ・すいません工業センターです。基本的には電話か工業センターの方に来られたときのお問い合わせで予約を受け付けている。

▶委員

- ・私が感じたのは、私の学内の会議室も今はカレンダーに書き込んで、早いもの順で取っているが、そういうかたちでサッと押さえられるとより使いたくなるような面もあるかと思うので、この利用実績は現在のシステムはこうだが、例えば方式を変えらるともっと変わるかもしれないというような、ちょっとやり方を変えるということも必要かなというふうに感じた。

▶委員長

- ・その辺も含めて、この後意見交換でご議論いただきたい。他に今までの設問の内容で質問等大丈夫でしょうか。

▶委員

- ・最初の4番のところに自社で実施すべき研修や会議の出席で、0回というのは自社内で会議等が完結しているという理解でよろしいのか。

▶事務局

- ・おそらくという回答になるが、自社内で完結しているのではないかという分析になる。

▶委員

- ・それと一番最後に、機能の充実という回答があったが、それを含めて社内で会議等するが他にについては機能の充実ということでそれについて具体的にお聞かせ願えれば嬉しいかなと思う。

▶委員長

- ・この調査の報告の質疑はよろしいですか。またお気づきの点があれば、その際にご質問いただきたい。

○従業員向けアンケート結果

▶事務局

- ・まず概要の調査対象者は長田野工業団地立地企業従業員及びアネックス京都三和立地企業従業員ということで、合計で426名の方にアンケートに御協力いただいた。委員のみなさまからの御意見をもとに、委員長と事務局で調整のうえ、確からしい結果を求められる回答数が400以上と設定した中で、426名から回答をいただいた、というところである。
- ・アンケートに御協力いただいた426名の内訳はスライド35ページのとおりとなっている。
- ・家族構成はスライド36ページのとおりとなっており、複数回答ありの項目ですが、高校生までのお子さんを育てる子育て世帯の割合が60%以上となった。次いで単身者、夫婦のみ世帯となっている。
- ・通勤場所、通勤手段ですが、通勤場所は福知山市内から通勤される方が8割近くで最も多く、通勤手段はほとんどの方が自家用車での通勤と回答された。
- ・問1の利用実績と利用頻度について、まず企業交流プラザの利用の有無ですが、直近1年で利用したことがある方とない方はおおよそ五分五分の結果となった。利用されたことがある方の利用頻度は、ほとんどの方が年に数回利用されたという結果となった。
- ・スライド39ページの利用目的について、最も多かったのは長田野工業センターが実施する研修や会議への出席、イベント等の参加という結果となった。企業向けアンケートでもこの項目の利用回数は多かったため、企業向けアンケートと同様の結果となった。
- ・問2の企業交流プラザに求められる機能に係る設問について、特徴的なものをピックアップしていきたい。

- ・スライド41ページの（1）健康増進のための簡単な運動に係る項目ですが、全体では「少し望む」「望む」と回答された方が48パーセントという結果となった。男女別でみると、男性は46%、女性は54%となり、男女で少し差がみられる結果となった。
- ・スライド42ページの（2）保育・託児機能に係る項目ですが、こちらも全体で「少し望む」「望む」と回答された方が40パーセントという結果となったが、男女別でみると（1）の健康増進の項目と同じように男女で少し差が見られる結果となった。また、子育て世帯に絞ってアンケート結果をまとめたところ、「少し望む」「望む」と回答された方が53パーセントで全体よりも高い結果となった。
- ・スライド47ページの（7）自社以外が合同で開催する各種研修の項目ですが、この項目はこれまでから長田野工業センター主催の研修等で利用されていることを想定したうえで設けているが、こちらは「少し望む」「望む」と回答された方が60パーセントで、従業員向けアンケートのどの項目よりも高い結果となった。
- ・スライド49ページの（9）市民イベントでの交流について、こちらも「少し望む」「望む」と回答された方が48%と半数程度の結果となった。こちらの項目についても子育て世帯に絞ったところ、「少し望む」「望む」と回答された方が53パーセントで全体よりも高い結果となった。
- ・従業員向けアンケートに回答いただいた方の自由意見についてはスライドの51ページから54ページになるが、駐車スペースの確保、コンビニ等の設置、キッズスペース等については、複数の方からの意見があった。その他には防災に関する機能やフリーwi-fiの利用、検定会場としての活用や更新後の企業交流プラザの維持管理に関する内容など、合計で107名からの自由意見をいただいた。
- ・企業交流プラザの設置場所及び規模ですが、こちらは企業向けアンケートと同じような結果となり、設置場所は現在の場所、規模については機能が充実すれば規模は問わないと回答された方が一番多い結果となった。

▶委員長

- ・今、事務局から従業員アンケートの調査結果について、簡単にご報告いただいたところである。まずは、今回のところについての設問の内容、結果等について、ご質問等があれば、ご発言いただきたい。

▶委員

- ・ちょっと見て感じたのは、先ほどの子育て世代の集計的な発言があったりもう少し細かい属性で集計がされているのか。
- ・男女別と世帯類型別でもクロスをかけていると思うが、他に何か集計分析されているかという

ことである。

▶事務局

- ・事務局の判断でクロス集計をして、今回出させていただいたが、発言した以外ではあまりクロス集計していないので、また持ち帰ってクロス集計させていただきたい。

▶委員長

- ・多分調査結果が出てからの時間的な問題もあって、年代と世帯類型の中でも、回答者が多かった子育てのところを見ていただけたと思うが、こういう属性とクロスかけた方がよろしいんじゃないかといったご示唆いただけるものがあれば、ご意見賜ればありがたいですが、何かありますか。

▶委員

- ・私もこういう調査系を割とたくさんやってきたので、少なくとも今回のアンケートは年齢の部分がすごく大きいと思っている。
- ・やはり10代20代は少ないが、比較的若い世代がどう希望されているかということと、50代60代の意見とはかなり違うと思うので、今後方針を考えるうえで、そういうことはやっておかないとちゃんとデータが読み取れないのかなというのが、率直な感想である。
- ・採用研修での需要が多いということが、パッと見て印象がある。それは、とにかく採用が大変だから採用頑張らなきゃという意味で、企業も従業員さんもすごく思っているところの反映であって、プラザの機能として、採用だけが吸収して他が少ないところだけを見ると、ちょっと本質を見誤るかもしれないという気がする。
- ・それとすごくやりたいことをする上で、プラザを使いたいという要求があるのであれば、先ほどの企業間交流とか講習とか、そういうあたりでもソフトウェアの定義の仕方、或いは、そういうことを担う何か主体的なメンバーを発掘するということ、そういう意味では自由記述に積極的に書かれた方は多分自分もそういうことをやりたいという気持ちもあったと思いますので、そういった人を発掘しながら、どういうソフトウェアを考えていくかという意味で、データ分析したほうがいいかなと感じた。

▶委員長

- ・クロス集計に関しては、次回の検討会までに年代別でのクロスをかけた結果を、資料として作成いただければありがたい。
- ・もう1点の各種機能、ご意向等について、定量的に示されているものを持つ意味合いと合わせて、自由記述等で書かれている内容を読み解いていく、もしくはどういう意図でこれが書かれているかというところもちょうと配慮関係も推察しながら、機能のあり方についての意見交換

を進められたらよろしいのではないかとということで、貴重なご意見いただけたらと思っております。他に調査のこと等でご質問ありますか。

▶委員

- ・1点だけ確認ですが、立地企業の各社によってセンターとの関わりはいろいろ温度差があると思うが、この従業員アンケートの回答者数426名の方々は、依頼のとき、どういう感じで振り分けられたのか、各企業何人お願いしますってというような感じなのか。そこら辺教えていただけるか。

▶事務局

- ・アンケートの回答者数につきましては各企業の従業員数の10%の人数を対象にして、声をかけさせていただいたところである。

▶委員長

- ・基本的には一律の基準で人数割りをして、回答していただいたところである。
- ・次は商工会・商工会議所向けの調査結果について報告をお願いします。

○商工会会員企業・商工会議所会員企業アンケート結果

▶事務局

- ・まず、スライド59ページの概要について、対象は福知山商工会議所会員企業19社及び福知山市商工会会員企業2社の計21社にアンケートをお世話になった。
- ・調査方法は、福知山商工会議所会員企業はアンケート調査票の記入、福知山市商工会会員企業2社は事務局による聞き取りを実施した。
- ・利用実績と利用頻度ということで、スライドの60ページになるが、直近1年間の企業交流プラザの利用の有無は、利用されたことがない企業のほうが多く、利用されている企業についても、年1回から年8回の利用にとどまっている。
- ・企業交流プラザに望まれる機能として、スライド40ページに11の設問の100%横棒グラフを載せている。また、スライド62ページから72ページまでは、各項目の全体の回答と企業交流プラザの利用の有無に回答を分けている。
- ・ほとんどの項目について、企業交流プラザを利用されたことがある企業は「少し望む」「望む」と回答された割合が高く、企業交流プラザを利用されたことがない企業は「少し望む」「望む」と回答された割合がそこまで高くないという結果となった。その中でも、スライド69ページの（8）長田野工業団地立地企業との交流については、全体、利用あり、利用なしのいずれも「少し望む」「望む」と回答された割合が高く、長田野工業団地立地企業と市内企業の受発注

率の向上といったつながりを求める要望が多い結果となった。

- ・最後に、福知山市商工会会員企業2社に聞き取りをした際にいただいた意見についてご紹介したい。福知山市商工会会員企業2社はどちらも三和町の企業であることから、今年4月にリニューアルオープンした三和荘の活用を望んでいるといった意見がどちらともからあり、企業交流プラザは距離が離れている分、施設の活用はあまり想定されないという声をいただいた。また、その他にも現行の福知山企業交流会のような企業間交流は必要であり、大きい会場での展示会を実施したいが、最終的には直接取引が成立するような仕組みでないと意味がないといった、実際にビジネスに関わるからこそ発言できる意見を聞くことができた。

▶委員長

- ・商工会及び商工会議所の会員企業への調査に関する報告を今いただいたところである。調査報告の内容自体に、ご質問等ありますか。

▶委員

- ・この回答者数の21社は母数に対してどれぐらいの比率なのか。

▶事務局

- ・福知山商工会議所の19社については母数が1089あるうちの、19社を選んでいただいて今回アンケート調査をさせていただいたところである。
- ・もう1つの福知山市商工会の2社については、全体で424社のうち、今回2社から聞き取りをさせていただいた。

▶委員

- ・抽出方法はどのような考え方をされたのか。

▶事務局

- ・商工会議所は、先ほど1089社と申し上げまして、この中には、長田野工業団地立地企業との受発注等を目的としました企業交流会も含んでいる。この中から20社程度を、意見を聞いて有効であろうという先を抽出いただき、そこから意見を聞いている。多くの企業があるので、その中から有効ではないかと考えていただいた先を抽出いただいた。
- ・商工会は424社の中から、比較的規模等も加味していただいて、有効であろうという先を2社に絞っていただいて、ヒアリング調査をしている。

▶委員

- ・はい、ありがとうございました。

▶委員長

- ・他に、こちらのアンケート結果について何かご質問ございますか。
- ・そうしましたら、ここから先は調査結果に基づく機能等の検討ということで、調査結果を受けて、皆様方からお気づきの点とか、先ほど機能をどうしていくかなどご発言いただいたので、改めてこれまでの議論もありますけども、今回の立地企業、従業員そして商工会商工会議所の方々のご意見ご意向等を踏まえつつ、どういった機能であったりとか、どういう使われ方が必要であるのか等々について、ご意見を賜ればなと思っているところである。
- ・その際に、まず本日の机上資料ということで、長田野工業センターより、アンケート結果に際し、論点整理ということで1つ、ペーパーを作っていただいておりますので、こちらの方の説明をお願いしたい。

（オンライン参加の委員へ長田野工業センター作成資料の画面共有）

- ・まずこちらの方の説明をしていただきながら、機能の検討をしていこうかと思っている。
- ・そうしましたら、こちらの論点整理ペーパーについてご説明いただきたい。

【調査結果に基づく機能等の検討】

▶委員

- ・長田野工業センターの中で、合意が取れたものではございませんのであらかじめご了承願いたい。
- ・アンケートを読ませていただいたときにちょっと感じたところだが、それぞれの皆様方のご要望等も含めて記載している。
- ・基本的には真ん中にある現在の企業交流プラザの役割というのは、この官民の役割の中でプライベートセクターとパブリックセクター、要するに私的部門がやるべきものと、公的部門がやるものが2つ合わさったかたちでの役割を今持っており、なぜかという、一般の方から、料金を徴収して、その対価でもって、研修等を開催するというようなこと、または就職支援というかたちになるので、まさに公的機関があったら、やっていただくようなものが基本的には中心になって、協力していくというかたちになるので、ここら辺がパブリックセクターの話になってくるのかなと思っている。
- ・こういったことを中心に今やっているが、アンケートの中ではプライベートセクターの話も出てきているし、パブリックセクター、公的機関がやっていけないことも要望としてあがっている。
- ・その中で、便益の対象とその効果ということで、アンケートで実際に言われていることについては、例えばコンビニ・自販機につきまして、これは欲しいというようなかたちで、アンケー

トで出てくるが、これはまさに市民の方々が直接対価を払うことによって、個人の利便性が向上するというものなので、公的な目的がなかなか入りにくいというかたちになっていくと思います。

- ・真ん中は地元企業をはじめ市民が対価を支払う。これは研修の対価を支払うということである。
- ・または税金、人材確保、就職の失業給付とかの関係も含め、そういったことについては全員目的を果たすことになっていくので、そういったところも含めて広範囲に利便性が広がっていくというかたちになる。ここでご紹介しているのが、公的機関を含めた人材確保、企業合同説明会、あとは高校、大学、企業との交流である。
- ・従業員の方から言われていた運動施設のオープン型利用での希望というふうな施設規模っていうのいいのではないかということも言われた。そういった一番下のベースに、まさに公的機関がやっていただくようなことですが、税金を投入する価値があるということになる。
- ・これは市民交流施設というかたちで、子育てとか、こういうイベントホールみたいなかたちのもの。あと、防災の恒常的な役割の一時避難所とか備蓄倉庫っていうことになってくるのかなと思っている。そのあたりは課題になりますけど、プライベートセクターのコンビニ・自販機等というかたちになりますと、基本的には民間部分が参入していくのが望ましいと思う。
- ・そういったかたちになると、どうしてもここの採算性があるのか、というようなことになるので、そういったことも考えていただくことも必要ではないかと思う。
- ・まさに税金を投入しないでどうやって民間の方々が、この場所を活用していただけるのかということを考えていかないといけない。
- ・ただし過去の事例にはたくさん失敗事例があり、公設民営運営というかたちで、交流プラザの一番最初のときに食堂機能があり、そういったものも参入していたが、やはり時間の関係で、夜には活用がないということで、撤退されたという事例がある。
- ・その他、こういった事例がたくさんあるので、そこら辺の見極めが必要かなと思う。
- ・それと現在交流プラザがやっているような話になってくるが、その中でご要望があったのはもう少し中規模の会議室が必要とか、駐車場をもう少し拡充すべきじゃないのかっていうご提案もある。
- ・人材確保の関係については現在させていただいているので引き続きになる。
- ・アンケートの中の要望で、運動施設や、夜間利用施設というのがある。
- ・ここをどういうかたちに考えていくのだが、体育館・グラウンドは近隣にすでに公的なものがあるので、そこを拡充しても要望にはフィットしないと思うので、ここら辺はもう一度検討していかなきやいけないのかなと思う。
- ・税によっては公的機関が果たす役割、保育施設とか、防災施設もだが、近隣の公的または私的な保育所等の施設との整合性が、事務局としてはどういうふうに考えていかれるのかということもありますし、避難所の関係についても、基本的には指定避難所が指定されている中で、

ここをどういう防災の議論をさせていくのかということを再整理していかなきゃいけないと思う。

- ・最終的に私が思うのは、その私的から公的までの機能を、施設につけていくということであれば、ここに対してどういう財源を充てていくのかということも整理をしておかないといけない。
- ・要するに、こういう議論がいいですよということで、提言していくことになったとしても、やはりコンビニがいいですねという話だけでは、普遍性はやっぱりできないというふうに思うので、そこを含めて、どういうものを財源的に充てていくべきなのかということも含めて整理をしていただければありがたいと思っている。

▶委員長

- ・今回のアンケート結果を見ていただいた上で、管理の役割であったり、名義の対象、それから実際に検討するうえでの課題等を整理していただいて、そのうえで重要だと思ったのは、交流プラザ自体が施設管理運営に係るマネジメントの体制をどうするかというところであったり、あとはその機能を載せるとしても、どういう財源に基づいてしていくのかという、一定程度の方向性もある程度検討する必要があるのではなかろうかというようなご意見を賜ったということとを認識するところである。
- ・こういうかたちで1つまとめていただいたところですが、他にも皆様方から忌憚なきご意見等いただければと思っているところでして、今回のアンケート結果を見ていただいたうえで、率直に感じられたことや、こういうことが実は必要なのではないか、そこはどうなのだろうといういろいろと思うこと、考えることがあるかと思うので、それぞれの立場でご発言いただければと思う。
- ・やはり立地されている企業さんの思いというところの部分で、考え等をご発言いただければと思う。

▶委員

- ・冒頭に今までの流れを簡単に説明していただけて非常に簡潔にまとめていただいたが、そもそも誰のためなのかなという話のところ、長田野工業団地立地企業の企業間交流ですから、企業交流促進する目的のためにオーバースペックにならないというのがまず前提で、せっかくなので、地域との交流とかもできることを検討していきましょう、本当に必要なのは何か検討していきましょう、こういう方向でいきましょうという話でしたが、目的のところ、企業の交流というところにもう少し、もし一個付け加えるとしたら、長田野企業の業績を向上させるというのが本来の目的だと思うので、そのために、企業間の交流を促進するということが大事だと思いますので、企業の社長でもありますから、経営者の目線で申し上げるが、業績を最大化したい。うちだけでなく40数社入っており、大阪とか東京の本社の会社もあるが、立地企業

の業績を最大化するためにこの長田野に工場を持っていることは、優位性がある。引き続き次の工場もここに建てたいと思うようなことだと思う。

- ・そこから考える会社向けのアンケートと従業員向けのアンケートと、それから市内企業へのアンケートは全部大事だと思う。あまり企業の業績のことを強く言いすぎると業績至上主義みたいになってしまうし、今SDGsなど当然それ以外のところも大事だと私は思っている。
- ・その上で共通の理解というところで言うと、やはり採用である。学生をどうやって採用するか、中途採用でもいいが。採用がどうやって円滑になるかとか、どうやってその人たちを育成、研修するかというところだが、そういうところかというと会社としては一昔前であれば業績を向上させて、納税したり、従業員の雇用も増えたり、雇用維持とか、雇用を守るというふうに昔は言っていたと思うが、もう今は守ることがないから、逆面接とかいう、面白い映画がヒットするような時代になっているぐらいなので、私も社長として、どうやって来ていただくか、お客様の感じで学生と接するようになっている。
- ・ですからどうやって（人材を）取るかというのと、それが前であれば、福利厚生はできますけど、福利厚生をちゃんとしないと取れないので、それで子育ての環境整えるとか健康促進するような何かとか、これはもう共通の理解になっていると思う。
- ・それから先ほどおっしゃったように、クロス集計のところで、女性の意見とかいう話がありますが、私も専門家ではないが、多分マイノリティの意見をどうやって拾い上げるかが大事だと思っていて、会社の中で意見とか言っているがジェンダーの問題とか言ってもなかなか響かない。
- ・なぜかという、田舎でやはり男性優位の社会なので、女性の意見をどう拾い上げるかというのも大事であり、ここの意見が出ていないが、総合計だけ見るといらないと思っても、よくよく見たらやった方がいいのではないかとすることがある。
- ・その1つが先ほどの女性の意見をちゃんとクロス集計でやったほうがいいと私も思うので、うちの会社で同じようなアンケート実施したとして、それによって女性が働きやすくなったりとかいうことをしていかないと、一方で本当に今般の人手不足で全然人が足りないのに、女性とかマイノリティの意見をどうやって吸い上げるかというのは私だけでなく多分、立地企業の社長全員思っていると思う。
- ・自分の会社の業績を最大化するために、どうしていくかと言ったときに、女性をちゃんと取ろうとか、1億総活躍社会と一昔前は言われたりしたが、法令の方だったり、LGBTの方とか障害者の雇用とかいろんなものが出てきますので、そういうことをするという目的が当初の目的で、企業の業者が最大化するために企業間の交流を促進する。
- ・単独でやったらお金がかかるので、みんなやったら安くなるのではないですかとか、そこに、せっかくそういうことをやるのならもうちょっと財源で手当てをつけていただければありがたいとかそういう方向性が大事かなと思う。

- ・それをやるのであればSDGsとかいう話もあるが、営業利益だけのこと、基本的に私は営業利益のことだけよく考えているが、それ以外のことだと株主至上主義とかそういうのは、行き過ぎたアメリカで地方社会はちょっと弊害があるかと私も思うので、地域の方にも還元できると言ってせつかく子育てに関する施設を作るのであれば、ここに関連している7000人とその家族だけしか使えないという話になると、排他的な感じがするので、せつかくであれば（地域で）使っていく方向がいいのかなと思う。
- ・目的は企業間の企業の交流を促進して事業の業績の最大化を後押しすること。オーバースペックにならないこと。
- ・基本的には、無駄な税金を使わない。何が本当に必要なのかというのを検討していただきたい。

▶委員長

- ・企業の経営者という目線で、今回の結果について、ご公算いただいたと思って伺ったところである。
- ・企業交流を促進するというのがまず第一番目の目的ではない。それは業績向上であり、業績の最大化である。その際に今各社にとっても共通理解となっているのは、やはり人をめぐるところであって、採用であったり、もしくは人材の能力開発みたいなものも入ってくるということである。
- ・さらには、福利厚生のところ、私のゼミ生も就活で頑張っていますが、追い風になっているので学生からすれば今の経営者サイドの目線ではということかと勉強になったが、福利厚生も含めた観点で、その共通の理解が出てくるのではないかと、それから、マイノリティになってしまっている立場の方々の声をできる限り吸い上げていった方がいいのではないかとということにおいては、それについては私としてはこの自由意見はすごく、耳を傾けていく必要があると思っているところである。個別の意見は絶対見落としはいけない、チェックすべきであるということである。
- ・企業の機能を考えれば、社会的な責任というのを果たしていくという観点においては、人材を育てるとか、ジェンダーなどのマイノリティの方々を配慮することがひいては地域全体の裨益にも繋がってくるのではないかとというようなご意見だったのかなと思っている。
- ・ちなみに、今回の企業向けの調査の中で、防災に関するところの話が出てきたかと思う。その際に企業経営において先だっては能登半島地震があったりとか、平時があれば非常時ということも、常日頃企業経営者のみなさまお考えかと思うが、その非常時を考えた際も、何か各社でも共通してできるような共同化みたいな話は、誰かから話が出てきたりされるのか、もしくはそういうことをちょっと考えられたりしたりするのか。

▶委員

- ・ 備蓄とかそういうことですかね。考えているが、40数社ある企業も様々ですので、弊社は中小企業ですし、大きい企業であれば、本社とかでやっているかと思うが、私の意見がどちらかというと地元の意見になってしまうが、やる余裕がないので、やってもらえたら大変ありがたいと思うが、大きな会社は多分やっていると思うので、どれぐらい各社に負担をお願いするかというのは、ちょっと私だけの意見ではどうかなと思うが、備蓄とかは、本来は自分たちで準備しないといけない話だが、ちゃんとできていないので、やっていただけたらありがたい。

▶委員長

- ・ そうしましたら、今回調査対象となっております、商工会さんとか商工会議所さんもそれぞれから今回の結果等を踏まえて、ご意見等賜りたい。

▶委員

- ・ アンケート結果を踏まえてということだが、率直に最初資料をもらって見たときに、なかなかこのアンケートから方向性を出していくのは難しいなという感じがした。それなりにどの項目も、要望が強いなという数字が出ている感じがしたので、そうなると思っていたが、そういうところが第1印象である。
- ・ その中で特に突出して高いのは、特に長田野立地企業の関係を中心に見ると、防災の関係では突出した数字が出ている。
- ・ あと、団体が開催する研修の場であったり、検討会でも出た保育・託児の関係といったところが比較的高い数字だったかというふうに感じている。
- ・ ただ、こういった高い数値の部分は特段、特別な機能が備わって、防災というと先ほど言った備蓄の関係とかそういうのもあると思うが、特別な機能が必要というのは託児所の関係ぐらいかなという気がしている。
- ・ そう考えると、今のセンターはセンターの事務所があって、あと共用で使えるホールがあって、1つは小さい部屋がある。災害対策にしても、常時それだけの部屋を確保していくというのは、無理な話なので、市のいろんな避難場所についても、普通は何か他の目的で使われるところが、災害時にはそうなるというところがほとんどですので、基本的に言えばいろんなニーズに対応できるホールがあって、それをニーズの場面によって、就職向けのイベントがあったり、災害の関係の場所になったりと、オールマイティさが必要なのかなとアンケート見て感じたところである。
- ・ 私は長田野の立地企業とそれ以外の企業というのは数字的にも若干異なる点があると思うが、やはり一番私が重視するのは長田野立地企業のご意向なのではないかなというふうに考えている。

▶委員長

- ・今回の結果を見ていただき、ある程度予想されてきたというかここまでの議論の中で出てきた話のような大筋結果として、大まかな傾向が出た部分もあったのではなかろうかというところであったり、あとはハード面の付加的な機能として備えなきゃいけないものは、それほど多くはないのではないかという、子育て絡みの部分があるとするならば、いうところでご推察いただいたところである。

▶委員

- ・アンケート調査について、先ほど説明聞かせていただいて、私は3つありまして、まず企業保育の役割が長田野企業内の拠点というのが1点と、そして勤めておられる従業員さんの福利厚生施設というのが2点目と、3点目が外部機関、公立大学であるとかいろんな研究機関との開発拠点、交流拠点という産官学連携というような格好で見させていただいた。
- ・一番大事なところは、企業の業績の最大化が一番大切というようなところで、そのために福利厚生施設があったり、交流拠点があるというのは、基本になるかというような格好で思っている。
- ・先ほど紹介の企業で三和の企業2社にアンケートをとっていただいて、従業員規模で言いましたら、どちらも製造業で20名或いは50名の企業ですけれども、やはり立地的に工業団地が離れていることもあり、やはり三和荘が近くにあり、しかしいろんな研修におきましては企業交流プラザを利用するというような意見があったが、やはり直接取引が成立するような仕組み、あと企業間の取引に繋がらないような内容では意味がないという意見は本当に率直な意見なのかなと、きれいごとではない、企業さんは業績が大事であるので、そこが企業にとっては率直な意見なのかなと思った。
- ・ただこれは委員長さんも委員も言われたように、誰のためのどんな価値を提供するのかというところが一番大事かなということで、そのためのいろんな戦術があると思うのでそこをしっかりと固める上で、やはり一番大事なのは企業の業績の最大化、そのためには、やはり従業員の声も大事だし、地域間の交流も大事というようなところになってくるので、その辺のところ、大変漠然としているが機能を果たすような企業交流プラザとしたい。
- ・商工会も、小規模事業者の皆さんの支援をさせていただいているがなかなか思うように行かないというところで、企業プラザ自身もやはり、長田野工業団地そして市内の企業の、何かバックアップできるような機能が付加できれば大変嬉しいと考えている。

▶委員長

- ・3つのポイントにまとめていただき、まずは立地事業にとって拠点性を持たせられるように、それから従業員の方々の福利厚生施設、さらに研究開発・研究機関等との共同研究開発等のデ

ータとか何らかの交流をしていく場所になることが望ましいという意見をいただいたところである。

▶委員

- ・今住んでいる住民の意見というか、現在までの、企業との関わりの説明しかできないが、当初は一番上の建物の中にレストランのようなものがあり、そこはちょこちょこ利用させていただいて多少なりとも地元の人たちも利用していたが、それが閉鎖になり、その後は京都銀行さんが入って、その時には大野自治会に近いところに銀行が入ったので利用させていただいたが、今はATMだけになり、銀行が撤退された。
- ・私も下六人部の自治会長会の会長を12、3年させてもらっているが、下六には9の自治会があり、大野を含めいろんな会合の中でも企業交流プラザに対してのお話は、出たことが1度もない。
- ・ということは、いかに地元としての関わりが、皆無に近いかということ。
- ・1年に一回、コロナ前はイベントなどで、その時には地元の大野の地区の者は参加させてもらった。それ以外は、ほとんど関わりがない。広い駐車場があり、私は歩いて3分のところに住んでいるので、毎日見ているが、献血の時は駐車場がにぎわっているが、あまり利用されていない、その程度の利用でもったいない気がする。
- ・ただ入口付近は、少し安全になったが車が高速で通ることが多く、今現在の入口で人を寄せるような施設にされて、出入りするとなるとなかなか自動車に乗って入るのは難しいかなという気もする。側面の部分から出入りするようなかたちでもいいかなと思う。
- ・中は企業等関係なく、一般の市民も購入できるような施設、コンビニというか、営業の問題があるので、採算が合わなければ当然ないでしょうが、前のレストランがあったような、工業団地関係の者だけでなく一般の者が中に入って利用させてもらう機能を少し考えてもらえたらと思う。

▶委員長

- ・これまでの経過でいくと、食堂があった際には、地元の方も利用されていたとの話があり、現状地域の方々との接点を持つ機会はなかなかないというのと、すぐ近くに住んでいるからこそ、駐車場の状況が目に見えるところからすると、もう少し使ってもらった方がいいのではないかと、もったいないのではないかといったご意見でした。
- ・ただ、もし今後、利用を活発にさせていくのであれば、やはり交通のインフラであったり、安全性を担保できるかというところは配慮する必要があるだろうということである。
- ・結局は一般利用できるような、そういう機能を持ち合わせて、ぜひ使われるような部分であってもいいのではないのかというご意見をいただいたところである。
- ・いろいろと各委員さんからご意見いただいたところだが、アンケート結果等先ほどいくつかご

意見賜ったところだが、今回の結果を踏まえながら、何かお気づきの点や機能を考えるうえで
ご意見等ありましたら、ご発言いただきたい。

▶委員

- ・聞いていて感じたのは、業績を上げるために、企業は団地として企業交流を進めるというのは非常によく理解できる。逆に言うと、交流プラザのあるなし関係なく、例えばどのぐらい協力協働できて、うまくいっているかとか本当はもう一歩二歩踏み込んで協力できるのではないかと、そういう部分がいろいろあると思う。
- ・極端な場合、災害時に企業交流プラザを防災拠点として集まったと考えると、お互いに何か、助け舟を出し合って助け合っていくわけで。先ほど売店とかコンビニとかの話が出ていたが、各社で例えば購買、売店みたいな、小規模に持っているかどうかとか。
- ・次回、環境エネルギーの話をさせていただくが、そういうときに、例えば大手の余力のある企業さんは、かなりそれが進んでいて、教育的なことを中小の企業さんに何か提供するとか、何かそういう部分がいろいろ出てくると思う。そういうことが、このプラザの計画の中で各社が独自に持っている機能の中の一部を何か出し合って、こんなプラスになりますとか、企業さんと企業さん交流、もう少し広がったところでいうと子育て世代さんと従業員さん同士の交流とか、地元の方との交流とか、一般的にこういう建築物とか広場をうまくデザインすると、そこに人が集まってきて例えばマルシェをやって盛り上がったり、自転車やバイクでツーリングしている人が、福知山のここでイベントがあるということで人が集まってくるとか、いろんな展開が考えられると思っている。
- ・そのベースは、まず企業さんの交流であるが、とにかく社内独自の機能空間といったものをできれば出し合って、先ほどの財源の話と関係すると思うが、少し発想を柔軟にしていける必要がある。
- ・先ほどエネルギーとかジェンダーの話があったが、どちらかという一歩二歩先端的・先進的なことをしていることによって、団地のイメージ、企業のイメージが向上して、求職者もたくさん来るといような、一歩二歩先を行くことによって求人も成功できるし、地元福知山市の環境面とか、いろんな意味で向上すると考える。
- ・それから地元への愛着が大事である。私が別でやっている久御山町の場合、シビックプライドをかなり前面に出して、地元への愛着ということと、福知山市の場合、これまでエネルギー展とかでも府下では京都市に次ぐところで走ってらっしゃると思うが、そういうものが市民の方のプライドとか愛着とか、そういうことに繋がってプラザを良くしていくし、ここでこういうような交流ができて楽しくなる。それが各企業さんのイメージアップにも繋がるし、業績も上がる。
- ・そういったことに繋がるようなデータの読み取り方とか、或いはここを分析したらこういう要

素が詰まっているとか、そんなことを考えていただければと思う。

▶委員長

- ・まず立地企業さんにとってという部分から、広く地域社会、ひいては福知山市全体のシビックプライドという言葉が出たが、地域の愛着とか誇りとなっていくような、そういう存在としての部分を少し見出していけばどうかというご意見をいただけたと思って伺っていたところである。
- ・皆様方からそれぞれの立場で、今回の結果を踏まえつつ、どういう機能があったらよいかなど、忌憚なくご意見をいただいているところであるが、私が今回、まず結果を見たときに率直に思ったのが、もう少し利用稼働率を上げていった方がいいのではないかとこのところである。
- ・そもそも、使われないものであれば、作る必要ない。
- ・やはり使っていただきたいし、稼働率を上げていくことは、大前提として置いていただきたいところと思って伺っていた。まずは立地企業の思いや、従業員の方も気軽に使ってもらえるような場所になっていくということも大事でしょうし、それから地域住民の方も出入りができるような、そういう姿も少し求めていく必要があるということが、私がまず1つ思ったことである。
- ・皆様方からもほとんどご意見出ているところであるが、私一応大学にいますので、そちらの観点から見ると、将来世代との接点をどう作っていくかということについても、すごく大きな関心があるかというところとちょっと微妙だが、従業員の方の個別意見とか聞いたりすると、直接いろいろ体験できる場所が欲しい。
- ・ものづくりをやっている企業が、もちろん休日出てとなると大変かもしれないが、将来の人材を確保するというところで、超長期的な投資、言い方換えればコストかもしれないが、そういうところで、身近に触れてもらうとこんなことができると、これを組み立てたものができる、率直な驚きを与えるような、そういう機会があるだけでも違うだろうと思う。
- ・要は、これは単純に機能の中のソフト部分の話になるかもしれないが、将来世代との接点をいかに作っていくかということでは、小さいころから始めて、今高校では探求型学習も始まっている。大学ではPBLということで、課題解決型ということで、実社会の課題と向き合っている教育が出てくる。
- ・これを建てた場合は、立地企業が共同でやっていく事業の中、教育的な要素もちょっと含めながら、将来世代の接点作りながら、ゆくゆくは人材確保に繋げる。
- ・本学でも、福知山高校を出て、福知山公立大学に来ていただいて、そして長田野工業団地立地企業に就職するという、あるべきというか、非常に望ましい卒業生が出てきたところですので、そういう流れを着実に積み上げていくという観点においては、高校・大学と企業との交流会の設定の部分を膨らませていくことがあったらいいのかなと思う。特段何かハード、新しいもの

を作っていくということよりも、いくつかこういったことにも対応できるような、今ある施設内のレイアウトの作り方とか、そういった部分で対応できる部分の方が大きいと思っているところである。

- ・もちろん新たに作っていく必要があるものとして、子育てとか交流できるような場所をどう整備するかみたいなところは、新たなハードの設置として、今の施設のプラスアルファでもし考えるならば出てくるところかと思っている。
- ・まず大前提として、利用稼働率を上げていくということがあり、それを念頭に置きつつ、今ある機能に加えて、まず企業さんにとって共通の理解として使いやすい場所としていくためにはどうしたらいいのか。それから、従業員の方々にとっては気軽に使っていただける場所にするにはどうしたらいいのか、そして地域住民の方にも、広く使っていただけるような場所にもなれたらいいというようなところが、今回の結果を見ながら、すごく感じたところで、そのためにはいくつかソフトとしてこういうことができるのではないかと、そういったものに対応できるようなレイアウトの方も検討する必要があるとは思ったところである。
- ・それとあわせて、今回の意見はいろいろ出てきた中で、財源という言葉が出てきた。
- ・これについていくつかアイデアが出てきているところだが、それぞれ検討するにあたっての財源と、今回ペーパーでいただいている論点整理の中に、例えば子育てとかの話になれば、他の子育て施設の整合性が必要であったりとか、あとは防災施設の話であれば、指定避難所との整合性が必要だということのご指摘をいただいているので、こういったところの部分の確認も含めて、事務局には、さらに検討を進めていくために、調べてもらい、検討会の方に話をさせていただきたいと思っている。
- ・それともう1つ、これは今回企業向けの自由意見等を見たときに、全体の回答結果もそうだが、災害対策本部等の機能ということに対して非常に強いご意見が今回長田野企業であり、また自由意見のところによると、災害対策本部として活用できる機能を備えていただきたいということが書かれており、今回この結果を見たときに、企業さんとして先ほど投げかけたところですが、防災機能として具体的にどういったものを望まれるのかというところについて、今回どうしても5段階の選択で聞いたり、自由意見で書いてくださる方いらっしゃると思うが、この出ている意見に加えて、例えば災害対策本部の場合には、どういったスペックであったり、どういうものを求められ、望まれていらっしゃるのかとか、それから先ほど備蓄の話も出てきたが、もし可能であれば工場長会の方々に、防災機能の具体的な何か要望とか、こういった意見をちょうだいできるとありがたいなと思っている。
- ・より具体的に取りまとめを進めていく時に必要になってくるというところで、今のようなことを要望してもよろしいか。

▶委員

- ・工場長会の中でヒアリングするということか。

▶委員長

- ・はい、ヒアリングというか、例えば周知期間を受けて自由に意見いただくとかで構わないですが、防災機能、避難所機能等についてももう少し具体的なところの参考意見をいただきたい。

▶委員

- ・はい。聞いてみる。工場長会の議題に挙げるとかして聞いてみる。

▶委員長

- ・進め方についてはお任せするが、もしよければ次回あたりで可能であれば、ご意見いただければ幸いである。
- ・そうしましたら、今議題のほうは調査結果に基づく機能等の検討ということで、ここでちょっと一区切りさせていただき、その他意見ということで、議題項目設けている。
- ・こちらについて何かご発言等あるか。

(2) その他

【その他意見交換】

▶委員

- ・発言が続いて申し訳ないが、私としては福知山市の環境審議会で、脱炭素の計画に関わったということもあり、こちらに呼ばれているので、そういう環境と脱炭素という観点から少し発言をさせていただきたい。
- ・ご承知のように、エネルギー環境基本計画を昨年3月に策定している。その中でいろんな目標があるが、基本目標の4としてこの持続可能な生活を支える基盤が整ったまちという項目があり、その政策目標の最初に、公共施設における脱炭素化の推進を掲げている。
- ・交流プログラムは基本的に公共施設に準ずるものだと思うので、ゼロカーボンを目指すということは不可避だと思っている。
- ・次はZEBについて、私個人はネーミングは失敗だと思っているが、とにかくゼロエネルギーの建物を目指そうということは、今回のプラザでも検討いただく必要があるかと思っている。
- ・また、こういうのはゼロカーボンを目指した建築であり、それがある程度デザインをつくれたものであると、非常にあちこちから視察に訪れるようなことなど、非常に話題になる場合もあるので、こういう観点というのもこの検討会の中で、議論いただく方がいいのではないかと考えている。
- ・また、このように省エネルギー化するということは、基本的には断熱性能とか気密性能、吸収

性のよいサッシを入れるとかになるので、そうすると非常に建物の中の温度分布が小さくなったり、非常に健康にもよいというような研究が精力的に行われている。

- ・これは住宅での研究であるが、やはり温度の低い家に住んでいると、血圧であるとか脂質とか、いわゆる人間ドックで引っかかるような項目がほとんど良くないというデータが出ており、こういう交流プラザが環境によって健康に影響する建築をするとその企業の社屋とか、その他の施設に対する影響というのも非常にいいのではないかと思っている。
- ・もう1つは、先ほどの発言の中で何度か申し上げたが、脱炭素ではないが、建築のデザインとか周辺の空間のデザインが優れていると、非常にそこが魅力的であり、人が集まり、そこでいろんなにぎわいが生まれるということが言われている。
- ・工業団地の場合都心部ではないのでちょっと意味合いが違うかもしれないが、やはり周辺住民にとって、何か見たくなる場所というようなことをいろいろ検討するというのはすごく意味があると思う。
- ・特に重要なのはハードウェアとして建物を設計するとか、講演を設置するというようなことだけではなく、それをどのように活用するかの、どういうイベントを考えるのかという、ソフト部分が非常に重要なので、かなり柔軟な発想力がソフトウェアのアイデアと建築設計がかみ合ってくるといったようになっていくことを期待したいと思っている。
- ・でも、こういう脱炭素の議論を深めるにあたり、関連する取り組みやビジョンについて、京都府とか福知山市など行政からの説明が必要だと思うので、次回は京都府や福知山市の関連部局からの出席や発言をお願いしてはどうかと考えている。

▶委員長

- ・今回、環境であったり、脱炭素、それから建築デザイン等の観点から、最後ご意見いただいたのと、検討すべき項目として提示いただいたところである。
- ・もしこれに関連して、行政の立場から環境・脱炭素に関連した所見等が今の時点でおありであれば、少しご発言いただきたい。

▶事務局

- ・前回の最後の場面でも、脱炭素をテーマにして、施設の機能も、また団地のこれからのブランド価値というところでも、脱炭素推進ということをおっしゃった。
- ・福知山市環境審議会において、脱炭素を進めていくための区域設定ということで、環境省が制度を持っているが、脱炭素化促進区域という区域設定を、福知山市も幾つかのエリアをターゲットに設定するというところで、まずは公共施設を最初に選んで着手していき、その取り組みが経済的にも排出量の観点からも、効果を生むというようなことを上げていきたい。次いで、産業界の集積地の1つである工業団地を中心に、その他事業所も含めてだが、どこかを区域に設

定していきたいと考えている。

- ・そもそも有望な面が工業団地になるわけだが、こういう機能を備えるセンターの議論が進んでいるということで、環境施策では、脱炭素を事業者様のご協力もありながら進めていくかというのと併せて、そのシンボルとして、プラザの機能、ソフト面を含めて、行政からの発言を求められたので宿題として今回、やらせていただいて次回に備えていきたいと考えている。

▶委員長

- ・今回の論点はやはり1回目から重要なものであり、共有してきたので、次回の際にももう少し詳細な説明がいただければ幸いである。
- ・大変遅くなったが、京都府さんにもアドバイザーというかたちでご出席いただいているので、これまでの議論を踏まえて、何かしらご助言というか、ご意見等賜ればと思っている

▶アドバイザー

- ・各委員様からのご意見と重複するが、京都府の立場としては、第1回るときから発言させていただいている、今京都府が1丁目1番地で行っている京都府子育て環境日本一という施策がありますので、交流プラザにおいても、せっかくの建て替えということを考えると、もちろん立地企業様の交流を前提とした上で、1つのアイデアとしてその施設内に、子育て環境に資するような施設、例えば託児所とか、そういったものになろうかと思うがそういった施設と一緒に整備されることによって企業様、また地元の方々にとってより使いやすい施設になるのではないかと考えているので、そういった観点も今後、具体的な計画を進められる中で、1つのアイデアとして考えていただければと思っている。

▶委員長

- ・皆様方からご発言いただきありがとうございました。
- ・脱炭素の観点に関しては非常に重要でありますので、この点について、次回の議論、問題として、設定していく必要があると思っている。
- ・今日の質疑応答・意見交換の中で、追加のアンケート調査の分析をした方がいいのではないかということがあったので、特に従業員向けアンケートの年代別のクロス集計の結果について、その結果を次回また共有できればと思うし、工場長会の方で防災機能の具体的なご意見・話を共有させていただければ幸いですし、財源の話についても事務局サイドで整理していただくと幸いである。
- ・次回、今回の宿題の部分と今まで重要であるというふうに確認してきたもののまだ中心できちんとできていない環境脱炭素の面についても、意見交換していく必要があると思っているところである。

- ・次回はそういった議論を踏まえつつ、時間の許す限りになるかもしれないが、提言に盛り込む事項についての検討がある程度大まかに見えてくるところがあるかなと思っている。そのため、そこに関しては提言案についてのご意見等をいただければと思っている。
- ・提言案の骨子については、第5回目ぐらいを目途に提示しながら議論ができたらと思っている。
- ・その内容についてはこれまで皆さんのご意見いただいたものを踏まえつつ、事務局と委員長で整理させていただいたうえでご提示するという考えである。
- ・地域の方の意見を取り入れるべきであるというようなことを第2回の検討会で議論したので、ある程度集約された提言案については、例えば事前にホームページに公開して、また広く意見を求める手法も検討しながら、提言案をまとめていく作業をしていきたいと思っている。

【令和6年度の予定】

▶事務局

- ・今後の予定として、次回第4回の検討会は7月下旬から8月初旬ごろに開催したいと考えている。環境・エネルギー分野を中心にご議論をいただきたいと考えている。
- ・4回の検討事項が一通り終了したら、第5回以降は提言書にかかる議論に移っていきたいと考えている。提言骨子については、まずは委員長と事務局で検討内容を整備していきたいと考えている。その際に各委員の皆様には個別にご相談させていただきたいと思っている。
- ・第5回の提言骨子に係る検討会については、まとめる時間を少しいただき、予定としては10月頃を想定している。
- ・スケジュールについては、検討会の検討状況、それから進捗状況により、最終取りまとめが変わってくる。

▶委員長

- ・今後のスケジュールについては、4回目、5回目さらに6回目以降を考えながら、提言書をまとめ上げていくというようなことを想定している。

▶課長

- ・委員長様、議事進行ありがとうございました。
- ・各委員の皆様も大変長時間にわたり、貴重なご意見をいただきありがとうございます。それではこれで本日の検討会を閉会させていただきます。

4 閉 会